

## 1 学校教育目標

- 明るく元気な子                      自ら進んであいさつし、体を動かして活発に遊び活動していく子
- 自ら考え学び合う子                主体的・対話的で深い学びをしていく子
- 仲よく助け合う子                  人を思いやり、優しい言葉で関わり合っていく子

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○防災教育への意識が高く、児童・保護者及び地域にとって安全で安心できる学校 ○やればできる体験を通して、自尊心を着実に育てていくことができる学校 ○学ぶ楽しさや喜びを体感し、確かな学力を身に付けることができる学校
○児童・生徒像	○「できない」「分からない」壁にへこたれず、継続的に努力し前進していく子 ○基本的な生活習慣を身に付け、明るく元気に体を動かして活動していく子 ○たくさんの人との関わり合いの中で、互いに気持ちのよい関係が築ける子
○教師像	○危機管理意識が高く、「誠意・迅速・丁寧」に対応できる教師 ○授業力向上を目指し、柔軟性をもって意欲的に研修し、日々実践する教師 ○子どもを受け止め⇒認め⇒誉め・叱ることができる、愛情豊かな信頼される教師

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校】	○チーム学校として、互いに連携し共通理解を図りながら、様々な課題に向き合い解決していこうとする。 ○働き方改革として自らの仕事のあり方について向き合い、改善に向けた努力をしていこうとしている。 ●生活指導上の課題として、個に応じた対応に十分な結果を残すことができていない。
【児童】	○相手の目を見て、明るく元気な挨拶をしていく習慣が培われている。 ○学級としての目標に向かって意欲的にその達成を目指し、個々が努力していこうとする姿がある。 ●相手や場に応じた言葉遣いができない実態がある。また、友達に対しての口調や言葉の選択に課題がある。
【保護者・地域】	○伝統的にPTAや地域はとても学校に協力的であり、熱心に教育活動にも関わっている。 ○欠席児童が全く居ない日も多い。登校班もしっかり機能しているなど、各家庭の教育への意識が高い。 ●LINEによる問題等を含め、子どもたちの見えにくい部分への関わり合いについて今後とも話し合っていく。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） H:平成 R:令和				
		H29	H30	R1	R2	R3
1	学力・指導力の向上	○	○	○	○	○
2	心身の健康の充実	○	○	○	○	○
3	個性や特性に応じた指導の充実	○	○	○	○	○

## 5 令和元年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力・指導力の向上							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・新学力感に伴う授業実践の徹底</li> <li>・補充学習指導の充実</li> </ul>		目標通過率目標 85% (到達目標 85%)		国語 87.8%、算数 92.4%		「勉強が好き」「将来に夢がある」が低い。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象教科 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
新規	授業力／指導力向上	国語・算数	通年授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教務主幹が、OJT ペアリング・教科専門指導員指導体制・自主勉強会等を活性化させていく。</li> <li>・OJT 勉強会週1度。改善テーマを明確化。</li> <li>・年次に関係ない教科専門員指導の徹底。</li> <li>・月1度程度の自主勉強会の開催と、生活指導と学習指導の両立を目指す研修会の実施。</li> </ul>	校長授業診断シートによる評価  指導教諭による評価  教科専門指導員の評価	前期中に各評価BOレベル(9段階評価で6レベル)。後期もBOレベル授業の継続実施。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校長授業診断評価全体平均A- (9段階評価で7レベル)。</li> <li>・各担当指導教諭評価B<sup>+</sup>以上対象7人全員。</li> <li>・教科専門指導評価授業力課題1名</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校として、足立スタンダードの基本的な流れはできている。</li> <li>・ICT活用授業も活発である。</li> <li>・授業の基盤となる、生活指導面での指導徹底が甘い教員に課題がある。</li> </ul>	○
新規	国語科研究～「読解力」活用を通し	全児童 国語、他 全教科	通年授業 研究授業 6, 9, 12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究主任教諭と主幹教諭を中心とした各担任</li> <li>・年3回の活用力研究授業を通して、「読解力」学習の他教科での活用を推進していく。年間5回の外部講師指導を受ける。</li> </ul>	教員自己評価の実施	1月末の研究に関する自己評価結果ABC評価で、Aが全体の8割以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より深い読みに導く発問研究への、継続を含めたA評価が100%</li> <li>・研究授業1回増</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語科「読解力」は継続しながらも、物語文から説明文に研究対象を変更予定。</li> </ul>	◎
新規	少人数算数指導 習熟度別指導法の確立と実践	全児童 算数	通年授業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数算数指導担当主任教諭を中心とした各担任</li> <li>・習熟度に応じた、各コースの人数配分、具体物の活用、定着を図るプリント問題の安定した実施</li> </ul>	管理職による授業観察自己評価	各月毎の少人数算数担当社の報告、及び改善自己申告時の指導確認習熟の厳しい実態、単元テスト80%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計算コンテスト結果、昨年度の通過率がポイント0.5向上</li> <li>・学年末学力調査プレテスト結果、昨年度より12ポイント向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導力や推進力ある教員を配置することによって、今まで以上に、組織的・効果的な運営が実現できた。</li> </ul>	○

改善	組織的少人数補充学習指導の計画的・継続的実施	全児童対象とした定着率70%以下	通年放課後読書タイム パワーアップタイム	・学力向上担当の主任教諭を中心とした、管理職・専科・各担任1～3年生は、6時間目のない枠で基本実施。4年生以上は、15:30～16:00(夏16:30)実施	補充学習卒業テスト80%以上 計画に対して実施率80%以上	月末毎に担当教諭が月例報告「児童実態とテスト結果報告、実施の有無の2点	1年MIM学習/2年基礎計算力継続100%実施。補充機関確実実施。	学力向上主任が精力的に実施運営にあたった。	○
継続	漢字・計算コンテスト全校授業～勉強の仕方を学ぶ～	全児童漢字・計算	第1回 6/27,28 第2回 12/5,6 第3回 3/5,6 全校授業年3回	・校長：計算10問、漢字25問コンテスト各3回 ・コンテスト便りテスト前後2回ずつ計6回発行 個人・学級表彰、課題の振り返り全校授業 ・継続的で丁寧な学び方について学んでいく	テスト結果分析	全学年コンテスト毎に 平均80点以上 丁寧さ70%以上 通過率80%以上	第1回平均点87.7点 通過率82.0% 第2回平均点87.6点 通過率82.5%、丁寧さ87.6% 第3回平均◆点 通過率◆%、丁寧さ◆%	字を丁寧に書くだけではなく、計算の筆算も見直しができるように工夫しながら丁寧に書く習慣が育まれている。	◎
改善	読書タイムの充実	全児童図書活動	通年朝読書タイム15分間 火、木、金曜日	・読書推進主任教諭を中心とした各担任/全教職員各学年毎の必読書設定と読書カードの連動 ・図書室活用計画と調べ学習の教育課程位置づけ ・月2回の教員等による読み聞かせ訪問	読書カード分析 アンケート分析	2020年2月末までに 必読書の70%読破 読書好き全体75%以上	読書好き 86% 必読書読破 15人 約5%	確実に貸出冊数は多くなってはいるが、今年度よりスタートした必読書への意識が十分に高まらなかった。	○
継続	サマースクール	全児童対象とした国・算基本定着率70%未満	7/22-31 8日間 8/29-30 2日間 計10日間	・学力推進部担当者と全教員で、少人数指導の実践。 ・課題習熟率70%未満児童を90%まで引き上げ。 ・足立学習教室との連携もしていく。	後半2回に定着率判定テストを実施する。	最終日までに、課題項目70%を90%以上にまで引き上げる。	算数：文章読解/計算の基礎、国語：文章読解が、40～70%の実態から平均87%に向上	実態に応じた個別指導体制であったため、十分な指導体制が組めなかった。	△

<b>重点的な取組事項－2</b>		心身の健康の充実		
<b>A 今年度の成果目標</b>	<b>達成基準</b>	<b>実施結果</b>	<b>コメント・課題</b>	<b>達成度</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力状況調査による「柔軟性」「俊敏性」の向上</li> <li>・定期健康診断による病気治癒証明書の回収徹底</li> <li>・LINEトラブル解消</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力状況調査都平均以上</li> <li>・治癒証明書回収率95%以上</li> <li>・年度末アンケート良好90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体力合計点都以下1年女子のみ</li> <li>・治癒証明回収率97.7%(1月末)</li> <li>・3年生以上Q-Uアンケートでは、ネット侵害意識は2%(6月)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体的に体力向上に向けた取り組みを継続的に短時間の積み重ねが必要である。</li> <li>・治癒証明提出への意識は確実に高まった。</li> </ul>	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
「柔軟性」「俊敏性」の向上	体力状況調査都平均以上	体育授業導入 5分間運動の継続	2月に実態調査 柔軟性 俊敏性 ※結果確認できず。	6月の結果を受け、今現在ラダートレーニングをはじめ、確実に導入の5分間トレーニングを継続して実施 2月検証	△
病気治癒証明書の回収徹底	治癒証明書回収 95%以上	保護者への継続的・様々な働き掛け	歯科：97.3%、視力：100%、耳鼻科・眼科：100%の回収率 平均99.1%	病院への受診率が高まる一方で、決まった家庭の実態改善が難しい。	◎
LINEトラブル解消	アンケート良好 90%以上	保護者意識の啓蒙と SNS ルールの徹底	Q-U 結果では、「ネット上での侵害感」があると答えた児童は、4年7人、5、6年で各1名ずつ。	95%以上は良好であると答えたが、4年生の実態改善が必要である。	◎

<b>重点的な取組事項－3</b>	個性や特性に応じた指導の充実
-------------------	----------------

A 今年度の成果目標	達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な支援を要する児童の実態把握と研修の充実</li> <li>不登校傾向児童への早期・組織的対応と関連機関との確実な連携</li> <li>アレルギー対応の確実な実施</li> <li>自己肯定感（ソーシャルスキル）向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全児童の落ち着いた学校生活実態</li> <li>不登校0人</li> <li>アレルギー事故0</li> <li>自己肯定感全体85%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>12学級中2クラスに落ち着かない状況があったが、改善させた。</li> <li>不登校児童0</li> <li>アレルギー事故0</li> <li>.</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>落ち着かない要因として、1クラスは特別な支援を要する児童対応、1クラスは教員の指導力不足。</li> </ul>	○

B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
特別な支援を要する児童対応	全児童落ち着いた生活実態	組織的な指導と校内研修会実施	CDを中心にケース会議6回実施。教室以外の居場所づくりを常に設定、対応。	教室での生活が基本であるが、気持ちを落ち着ける居場所が必要	○
不登校傾向児童対応	不登校0人	早期対応と組織的対応、SC活用	不登校0 ただし、不登校傾向1名	不登校傾向の児童や家庭への組織的対応が結果に結び付いている。	◎

アレルギー対応の確 実な実施	安全性 100%確保	全教職員エピペン研修、家庭 との連携	エピペン事故 0	エピペン保持の児童が いる教室には、複数対 応で常に教員を配置	◎
自己肯定感向上	自己肯定感 全体 85%以上	Q-U検査、学力意識調査活用	6月実施Q-Uで要支援群に属し た7人の内6人が改善。	言葉の教室環境を整え ていくことには効果が 見られた。	○

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

・着任3年目としての一年間は、この2年間で実施した様々な教育課程、教育環境の改善（活用する教育計画づくり、その時々での学校評価と新年度計画、生活時程の大幅変更、年度毎の学級編成、3年生以上の交換授業、道徳の交換授業、分掌組織の再編成、会議削減、働き方改革、校内研究、読書活動の推進、合唱団の活性化、授業観察、時間講師フル活用、教室配置変更、コンテストや全校授業の実施、校内掲示、挨拶、言葉遣い、反面教師とはならない行動の在り方についての自覚、適材適所の人材の活用、主幹・主任の職責への責任をもった職務遂行、特別活動行事の精選と充実、防災に向けた地域との連携等など）に取り組んできた。今後ともその方向性の継続と、さらなる充実、組織全体の主体的な躍進を目指し、その結果を学力向上、そして人間教育に着実に結び付けていく。

### (2) 保護者や地域へのメッセージ

・地域の力は、昨年台風19号の際に地域が発揮した状況からもまさに想像できるものだと思います。まさに、ONE TEAMの姿に溢れる、その動きでした。これも日頃から、様々な場で、人と人との関わり合いがこの地域ではとても豊かであるということの、表れの一つであったと考えています。また、欠席児童が0人と言う日も多くある実態からも、家庭力の高さ・強さというものも感じます。学校は、今後とも今しかない子どもたちの小学校生活が充実した豊かなものになるように取り組んでいきます。子どもたちと共に、笑い、悔しがり、感動し、楽しみ、考える…。人間味溢れ、愛情に溢れる教育の実践を志していきます。

### (3) その他（学校教育活動全般について）

・学校は人間教育をしていくところです。勉強だけでなく、多くの友達との関わり合いの中で、これからの人生にとって、自分の支えとなっていく力を、学び育てていく空間です。そうした力の一つとして、「自尊心」というものを私は大きな柱として築き上げていって欲しいと考えています。たくさん「できた」「わかった」という体験だけでなく、「わからないこと」「できないこと」に向き合っていくことができる強い気持ちを大切に育てていきたいと考えています。これから未来に待ち構えている様々な困難な出来事に対しても、力強く自らの力を信じ、発揮していくことができる人となり、自分という人を輝かせていくためにも、今という一日一日の積み重ねを継続して積み重ねていくことができる力を身に付けていけるように、これからも子どもたちを指導し、導いていきます。